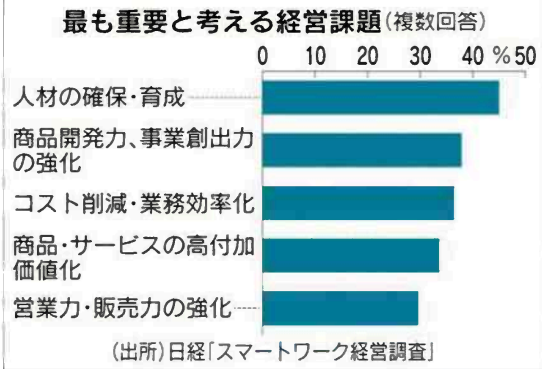


Smart Work

総合格付け上位40社(五十音順)

★★★★★ (偏差値70以上)		
アサヒグループHD	イオン	SCSK
NTTドコモ	花王	キリンHD
コニカミノルタ	資生堂	ソニー
ダイキン工業	富士フイルムHD	
三菱ケミカルHD	ヤフー	
★★★★☆ (偏差値65以上70未満)		
味の素	伊藤忠商事	
MS&ADインシュアランスグループHD		
キャノン	クボタ	コマツ
サントリーHD	塩野義製薬	積水ハウス
セブン&アイHD	SOMPOHD	
第一生命HD	帝人	デンソー
東京海上HD	TOTO	東レ
凸版印刷	日本たばこ産業	日本電産
ネスレ日本	野村HD	
ファーストリテイリング		
三井住友フィナンシャルグループ		
三菱UFJフィナンシャルグループ		
ユニ・チャーム	LIXILグループ	

(注)●は2018年3月期(一部を除く)に純利益で過去最高益の見通し(日経推定)、□は未上場。HDはホールディングス



生産性・多様性、成長促す

多様で柔軟な働き方の実現、新規事業などを生み出す体制、市場を開拓する力の3要素によって組織のパフォーマンスを最大化させる取り組みを「スマートワーク経営」と定義した。調査ではコナ、社員の生産性を高めていく。上位企業は「企業統治」などの経営基盤も加えて各社の総得点を出し、格付けした。正や多様な働き方で社員

日本経済新聞社は17日、上場企業・有力非上場企業602社を「働きやすさ」の視点で格付けした「スマートワーク経営調査」をまとめた。格付け上位40社の4割が今期、過去最高の純利益を見込む。いずれの企業も外国人など多様な人材の活用(3面きょうのことば)を進め、イノベーション(技術革新)を生み出している。社員の能力を最大限に引き出す経営が、高い成長につながっていることがわかった。(関連記事5面、総合格付け一覧を別刷り第2部に)

格付け上位40社4割が最高益

「働きやすさ」収益に直結

本社調査

総得点の偏差値が65以上の40社には、コニカミノルタやダイキン工業、アサヒグループホールディングス、花王、イオン、NTTドコモなどが名を連ねる。40社のうち、6割強の26社(未上場の2社を除く)が今期の純利益で増益を見込む。4割の17社(同)は過去最高を更新する見通し。上場企業全体では、最高益を見込む企業は24%だった。

人手不足が深刻になると定義した。調査ではコナ、社員の生産性を高めていく。上位企業は「企業統治」などの経営基盤も加えて各社の総得点を出し、格付けした。正や多様な働き方で社員

の能力を高めて、収益向上につなげている。システム開発のSCSKは月80時間を超える時間外勤務は社長決裁とすなど、経営トップが率先して長時間労働の是正に取り組み、月平均の残業時間を4年前から約3割減らした。2017年3月期の売上高は4期前から18%増え、純利益は167億円から284億円に増えた。朝型勤務の導入などで残業時間を15%減らした伊藤忠商事も、今期、純利益で2期連続の増益を見込む。

新しいアイデアを吸い上げる仕組みをつくる例。18年3月期で5期連続で急務な日本企業にと

も、海外で働く現地社員への権限委譲も進んでいる。18年3月期で5期連続で急務な日本企業にと

も、海外で働く現地社員への権限委譲も進んでいる。18年3月期で5期連続で急務な日本企業にと

も、海外で働く現地社員への権限委譲も進んでいる。18年3月期で5期連続で急務な日本企業にと